

Press Release

報道関係者各位

平成24年11月29日
株式会社ユビテック
(JASDAQコード:6662)

「BE GREEN Next」国際標準通信規格への適合を確認 ～東大グリーンICTプロジェクト IEEE1888通信装置の接続試験に参加～

ユビキタスプラットフォーム事業の創生を目指す株式会社ユビテック（東京都品川区、代表取締役社長：荻野 司、以下「ユビテック」）は、国立大学法人東京大学（総長：濱田 純一、以下「東京大学」）の東大グリーンICTプロジェクト（代表：江崎 浩、以下「GUTP」）が平成23年3月より実施している国際標準通信規格IEEE1888の相互接続検証において、ユビテックが開発した「BE GREEN Next」のIEEE1888通信機能が同通信規格に適合していることを確認しました。

この相互接続検証は、IEEE1888を搭載した他社システムとの通信の互換性を確認するもので、広範囲な電力削減を実現するシステム構築に繋がる活動であると位置づけております。

【ご参考①】平成23年3月 IEEE1888相互接続検証プレス掲載URL

<http://www.ubiteq.co.jp/news/pdf/20110328-ieee1888.pdf>

【ご参考②】東大グリーンICTプロジェクト IEEE1888関連プレス掲載URL

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/public01_241126_j.html

IEEE1888は平成23年2月2日に正式承認された「スマートコミュニティ」や「ビルエネルギー管理システム」など向けの国際標準化されたオープンな通信規格で、中日協働で標準化を進め、GUTPが技術仕様の面で大きく貢献しています。ユビテックも活動の中心メンバーとなって標準化を推進して参りました。

平成24年10月17日から18日にかけて、新たなメンバーを加えた企業・大学で開発されたおよそ30種類にのぼるIEEE1888通信機器、およびその周辺装置を一か所に集め、相互接続試験を実施しました。

ユビテックは「BE GREEN Next」にIEEE1888を搭載して検証に参加し、他社の各機器（次頁「参加企業・大学と持込み機器一覧」参照）と相互通信を行った結果、ユビテックが開発したIEEE1888通信機能が同通信規格に適合し、今回参加した他社のシステムとの接続が可能であることを確認しました。

また、今回の接続試験イベントにおきまして、基本的な相互接続検証に加え、新たに以下の3点に関して確認されました。

1) 従来型の設備ネットワーク規格との接続性

空調設備（BACnet（※1）規格に準拠）や太陽光発電量計測（Modbus（※2）規格に準拠）などがIEEE1888で接続可能になったことを確認しました。

2) スマートコミュニティシステムにおけるマルチベンダー連携性

複数の組織が運用しているIEEEサービス（※3）を自動的に連携させ、一つのサービスとして提供できること（スマートコミュニティのように多数の企業がエネルギー管理サービスを提供する状況下で、それらが互いに連携するための必要な条件）を確認しました。

3) 組込みボードへの実装性

4種類の組込みボード（PICマイコンボード（※4）、Arduino（※5）互換機、mbed（※6）など）にIEEE1888通信ソフトウェアを搭載し、他社機器と通信できることを確認しました。

「参加企業・大学と持込み機器一覧」

企業名	機器
株式会社インターコム	MaLion 3 ゲートウェイ、簡易ビューア、分析ソフトなど
株式会社大塚商会	PlugWise (スマートタップ)
エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社	レジストリ、ゲートウェイ
株式会社コムツアイト	プロキシ、ゲートウェイ・エミュレータなど
静岡大学	住環境センサ(PUCC)
株式会社システム・ランド	見える化アプリケーションなど
セイコープレジジョン株式会社	GreenTALK (設備・エネルギー監視ツール)
株式会社ディー・エス・アイ	Lonworks ゲートウェイ、PIC マイコンボード
東京大学	BACnet/IP ゲートウェイ、Modbus ゲートウェイ、パルス計測器、デジタル・アナログ計測器、レジストリ、ストレージ、プロトコルテスター
山口大学	スマートコンセント(mbed ボードによるゲートウェイ)、Lonworks ゲートウェイ(iLon 経由)、カメラなど
株式会社リコー	スマートタップ
株式会社ユビテック	BE GREEN Next (統合監視・制御ソリューション)

今後、ユビテックは、様々なシステムとデータを共有しながら新たな価値のある情報を生み出していくサービスの一翼を担えるよう、GUTP実証環境で「BE GREEN Next」のIEEE1888機能の運用検証を継続し、製品価値の向上に向けて開発を進める予定です。

「BE GREEN Next」にIEEE1888を標準搭載し製品化することで、電力削減や電力の見える化などのソリューション提供を国内市場のみならず海外市場の開拓に繋がると考えております。

引き続きユビテックでは「いつでも・どこでも・誰でも」ネットワークにつながるユビキタス社会とより効率的な電力利用を自然に実現する環境を目指し、GUTPに協力し、業界標準やオープン技術を積極的に活用して「BE GREEN Next」のシステム開発を進めて参ります。

(※1) BACnet: ASHRAE(米国暖房冷凍空調学会)の BACnet 委員会が策定したビルオートメーション用の通信規格。

(※2) Modbus: プログラマブル・ロジック・コントローラ向けに開発されたシリアル通信規格。電力メータの自動検針などの用途で広く使われている。

(※3) IEEE1888 サービス: IEEE1888 のシステムアーキテクチャで想定されているストレージやゲートウェイなどが提供するオンラインの機能。

(※4) PIC マイコンボード: Microchip 社が市場提供しているワンチップマイクロコントローラを使用して作られたネットワーク通信ボード。

(※5) Arduino: 世界的に広く使われているオープンな組み込みマイクロコンピュータのプラットフォーム。柔軟なハードウェア・ソフトウェア開発を可能にする仕組みが取り入れられており、小ロット多品種生産を可能にしている。発表当初は教育や研究期間向けで利用されることが想定されていたが、正しい開発ステップを踏めば十分な信頼性を持って動作するため、最近では、多くの事業で使われている。

(※6) mbed: 組み込み開発をクラウド対応させたボードで、高速なプロトタイプ開発ができることが特徴となっている。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社ユビテック 担当: 管理本部 総務課
電話: 03-5487-5560 FAX: 03-5487-5561